




第59回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 新潟大会

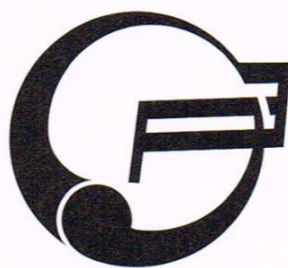
大会主題

羽ばたけ未来に朱鷺（トキ）めく子どもたち!!
～笑顔の花を咲かせよう 自然豊かな新潟で～

シンボルマーク

- 1  …… 力強く手をつないでいる全国の意
- 2  …… 幼稚園・こども園の意
- 3  …… PTAの意

元牛深市立深海幼稚園園長 蓑田浩 作



全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の
会員がしっかりと手をつなぎ、この会の発展、充実
をめざして協力し合う姿を表したものである。

日時

令和3年8月8日（日） 開会13:00

主催

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会
新潟県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会

後援

文部科学省 全国国公立幼稚園・こども園長会
新潟県 新潟県教育委員会
新潟市 新潟市教育委員会

第59回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 新潟大会



◇ 日 程	13:00	13:10	13:30	14:30	15:15	16:15	16:30
	オープニング	開会式	記念講演	提案発表	パネルディスカッション	閉会式	

◇ オープニング 「新潟の特色あるPTA活動」

◇ 開会式

- 1 開会の言葉
- 2 会長挨拶 全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長 山崎 篤史
- 3 来賓祝辞 文部科学省総合教育政策局局長 義本 博司 様
新潟県知事 花角 英世 様
全国国公立幼稚園・こども園長会会長 箕輪 恵美 様
- 4 大会宣言 新潟大会運営委員長 大島 洋平
- 5 表彰紹介
- 6 閉式の言葉

◇ 記念講演

「大人も子どもも夢を叶えるために 今 私たちができること」
講師 糸魚川市教育委員会 横澤 富士子 様

◇ 提案発表

埼玉県 千葉県 滋賀県

◇ パネルディスカッション

文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課 青少年教育室
室長補佐 山本 健司 様
全国国公立幼稚園・こども園長会長 箕輪 恵美 様
全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長 山崎 篤史
新潟大会運営委員長 大島 洋平

◇ 閉会式

- 1 開会の言葉
- 2 会長挨拶 全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長 山崎 篤史
- 3 運営委員長挨拶 新潟大会運営委員長 大島 洋平
- 4 次期開催地 挨拶 山口県 板井 佑介
- 5 閉式の言葉

◇ 参加者

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会員及び関係者



ごあいさつ

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会

会長 山崎 篤史

日本人の心「お米」の大産地、新潟を冠する第59回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会新潟大会が、現況のコロナ禍を考慮しつつ開催できることを皆様とともに最上の喜びと感じております。また、日頃より学校教育の一環である幼児教育とPTA活動に多大なるご尽力を賜っております、この要項を手に取りご覧いただきありがとうございます皆様に対し、衷心より御礼を申し上げます。

誰もが想像し得なかった感染症の影響により、私たちの日常生活は大きく変化を余儀なくされています。変化の激しいこの時代を、力強く生き抜いていく能力を育み繋いでいくことが、現代教育の本旨であるなら正に今、私たち大人の行動が試されている期間ではないだろうかと感じています。今まで経験したことのない状況が続き、暗中模索の時にこそ場当たりの経験則を積み上げていくのではなく、歴史に学ばなければならないと思います。

長岡藩の故事「米百俵の精神」です。今の生活が制限され忍耐を強いられようとも、時代の変化を生き抜いていく能力を教育によって育み鍛え繋いでいくことがいかに大切であるかを再認識する必要があります。そういう意味においても、繋いでいく機会である本大会が、新潟を冠して開催できたことに本当に意味があると考えています。

PTAが、次代に繋げていかなければならないことは、子どもたちの笑顔です。子どもたちの笑顔の力を様々なPTA活動、ボランティア活動等の現場で目の当たりにしてきました。どんなに大変な状況でも、子どもたちに笑顔があれば、私たち大人には力が湧いてきます。子どもたちが笑顔になるためには、遊び（ワクワクする気持ち）が必要です。遊び・読書・お手伝い等を通してワクワクの機会をつくることが、私たちが日々接している幼児教育の基礎であると思います。

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会は、大会主題に「羽ばたけ未来に 朱鷺（トキ）めく子どもたち!!」を掲げ、新潟の意志・仲間たちの想いを全国へ発信します。初めてのチャレンジとしてオンライン開催とすることで、多くの仲間が参加されることを願っております。

本大会を開催するにあたり、多大なるご支援ご厚情を賜りました文部科学省をはじめ新潟県、新潟市および教育委員会関係の皆様、また、新潟県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会と同園長会の皆様、大島洋平運営委員長をはじめとする新潟大会委員の皆様、オンライン開催にあたりご尽力賜りました皆様、すべての皆様に最大の感謝をお伝えするとともに、この瞬間にも逆境にある全国の仲間たちのもとへ、PTAの愛が届きますよう心からお祈り申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。



ごあいさつ

全国国公立幼稚園・こども園長会

会長 箕輪 恵美

美しい海と山に恵まれ、四季折々の風物詩や食の宝庫でもある新潟の地から、第59回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会新潟大会がオンラインという新たな形で、全国から多くの方のご参加により盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

世界中が巻き込まれている新型コロナウイルス感染症の影響で、世の中の仕組みや働き方、生活の仕方が急激に変わり始めており、子どもたちが社会を担うことになる20年、30年先の社会は予測不可能と言われています。明るく、希望のもてる未来を創造するためには、視野を広く物事を俯瞰して見る力、前向きな気持ちを持ち続ける力、困難な状況を突破できる発想力と行動力などが必要です。これらの力は、子どもたちが未来に希望をもち、力強く羽ばたく力、とも言え、本大会の主題、「羽ばたけ未来に 朱鷺(トキ)めく子どもたち！！」は、これからの時代に目指すべき幼児像を象徴するものであると言えます。

子どもたちが力強く羽ばたく力を得るためには、幼児期から質の高い教育を受けること、そして、子どもたちを真ん中にした大人同士の温かな輪の中で育つことが重要です。

国公立の園では特徴の一つとして、保育者が常に学び続けているということがあります。園内での学び合いはもちろんのこと、各区市町村・各都道府県の中でテーマに基づいての研修、時には全国から多くの保育者が参加して共に学び合うこともあります。それぞれの保育者が学んだことを各園の教育に反映するという国公立の文化とも言えるその営みが、各園の教育の質の維持・向上を支えています。

また、国公立の園は公の教育機関として地域に根差しているため、保護者・地域・行政との連携が図れていることも特徴の一つです。特に、保護者と園は共に子どもを育てるために手を携えており、そのつながりがPTAと言えます。保護者と園が子育ての喜びや悩みを共にしながら子どもたちの成長を支えることは、子どもたちの健やかな成長を願う目には見えない大きな力となっています。国公立の園のPTAの素晴らしさは、各園だけの活動に留まらず、各都道府県内や全国47都道府県につながりをもっているところにあります。PTAが横のつながりを持ち、情報交換をできる状況にあることは、各園で子どもたちの成長を支えていく力を向上させてくれるはずで、本大会でも各地域のPTA活動の工夫にヒントをもらい、記念講演を通して私たち自身が一人の人として学びを深めることができるものと期待しております。

結びに、本大会の開催にあたり多大なるご尽力をいただきました全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会、コロナ禍においても可能な形での開催を実現された新潟大会運営委員会の皆様に心よりの敬意を表しますとともに、本大会開催にあたりご支援を賜りましたご関係の皆様へ感謝申し上げます。



ごあいさつ

第59回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会

新潟大会運営委員長 大島 洋平

本来ならば新潟大会会場において「山あり、川あり、海ありの風土豊かな新潟によろそおいでくださいました。」と開会のごあいさつをしたかったところですが、皆様ご承知の通り、今年の全国大会新潟大会はオンライン開催となりました。全国の皆様と直接お会いして意見交換ができることを楽しみにしておりましたので、非常に残念に思っております。

しかしながら、前例のない新しい形での開催。今はドキドキ、ワクワクした高揚感に包まれております。開催様式は変わっても、幼児教育の未来のためにつなげていくという思いに変わりありません。

さて、新潟県では大会テーマを「羽ばたけ未来に 朱鷺（トキ）めく子どもたち！！ ～笑顔の花を咲かせよう 自然豊かな新潟で～」としました。

新潟県のシンボルでもある“朱鷺”（国の特別天然記念物で新潟県の鳥）が羽ばたく様子と、子どもたちが明るい未来に羽ばたいていく姿を重ね合わせて、大会のテーマに掲げました。

昨年より続いている新型コロナウイルスの影響で園の行事やPTA活動の中止や延期、または規模を縮小しての実施が相次いでおります。子どもたちの保育環境を思うと大変心苦しいです。この危機がいち早く終息し、元通りの園生活を取り戻せるように全員で力を合わせて新型コロナウイルスに打ち勝ちましょう。

今の時代はインターネットとモノが繋がり、膨大な情報の中でめまぐるしく早いスピードで社会が変化しております。これに伴って、子どもたちを取り巻く環境も年々変化しております。このような時代だからこそPTAの役割についても時代の流れに柔軟に対応しながら、今一度幼児教育についてしっかりと考えていく必要があると思います。本大会がこれからの子どもたちの未来に実りあるものとなるよう、また、今後のPTA活動がより一層良いものになるように、心からお祈り申し上げます。

結びに、本大会はオンライン開催となりましたが、無事に開催出来ますことは、PTA会員の皆様をはじめ、多くの関係機関の方々のお力添えがあつてのことと存じます。ここに感謝申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。



ごあいさつ

第59回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会

新潟大会実行委員長 田中 琢也

新型コロナウイルスの終息がまだ見えない中、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会全国大会新潟大会を迎えることとなりました。新潟県では、初の全国大会開催ということで準備を進めてきましたが、現在の状況を踏まえ、オンラインでの開催という判断となりました。本来であれば、新潟の地に皆様をお迎えしたかったのですが、オンライン開催を前向きにとらえ、一人でも多くの方に全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の活動また全国大会を身近に感じていただけたらと思います。そして本大会がこのように開催できることは、PTA会員の皆様をはじめ、関係各位の皆様のご尽力やご支援があつてのことと存じ上げ感謝申し上げます。

さて、新潟県では、「羽ばたけ未来に 朱鷺（トキ）めく子どもたち！！～笑顔の花を咲かせよう 自然豊かな新潟で～」を大会テーマに掲げました。新潟県は、その地理的特徴から四季それぞれに楽しめる恵まれた自然環境を有しています。春には、日本三大夜桜のひとつで有名な高田公園をはじめとした桜や県花にもなっているチューリップが楽しめます。夏は日本海に沈む真っ赤な夕日や日本三大花火大会のひとつ長岡花火があります。秋はコシヒカリで有名な魚沼や十日町の棚田に代表される、稲穂で広がる黄金色の田園風景があり、冬は一面の銀世界が広がります。その中で子どもたちが、感性を育て、創造力を膨らませ笑顔で大きく未来に向かって行って欲しいと願いを込めました。

国公立幼稚園・こども園の魅力のひとつは、生活の中で子どもたち自身が、いろいろな発見をし成長していくことだと考えます。その子どもたちの成長や園生活を楽しくより良いものになるように活動し、また、保護者として子どもたちとともに成長していく事がPTAの役割だと感じます。少子化が進み幼児教育・保育無償化が始まり、国公立幼稚園・こども園の園児数が減少する中、いままで通りのPTA活動を行えない園も少なくないと思います。さらにコロナ禍の影響で昨年度、今年度とPTAが集まることすら厳しい状況が続いています。この厳しい状況の中、共にPTA活動を行う仲間同士、子どもたちの未来のために今PTAとしてできることを話し合い、気持ちを共有できることを願っております。

結びに、本大会が子どもたちの笑顔のために、また、国公立幼稚園・こども園のPTA活動がより良いものになっていくことを、心からお祈り申し上げごあいさつとさせていただきます。

提案発表

- ◇ 子どもたちの豊かな感性と創造性を育むPTA活動
～園・家庭・地域社会・関係機関等との連携を通して～

埼玉県嵐山町立嵐山幼稚園
全国大会実践発表実行委員会
実行委員長 清水 千恵

- ◇ 園・保護者・地域が一丸となって 子どもたちの育ちを支えるために

千葉県浦安市立 明海認定こども園
令和元年度PTA会長 岡野 純子

- ◇ 育てよう！心豊かな金田のこども 「キラッと輝く金田っ子」
～コロナ禍の中でできること～

滋賀県近江八幡市立金田幼稚園
令和2年度PTA会長 歳嶋 円香



記念講演

「大人も子どもも夢を叶えるために
今 私たちができること」

新潟県糸魚川市教育相談員 横澤 富士子 様



パネルディスカッション

＜パネリスト＞

◇ 文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課 青少年教育室

室長補佐 山本 健司 様

◇ 全国国公立幼稚園・こども園長会会長

箕輪 恵美 様

◇ 全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長

山崎 篤史

◇ 新潟大会運営委員長

大島 洋平

＜コーディネーター＞

◇ 前全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長 猪木 直樹



【埼玉県】

子供たちの豊かな感性と

創造性を育むPTA活動

～園、家庭、地域社会、関係機関等との連携を通して～



嵐山町立嵐山幼稚園

全国大会実践発表実行委員会
実行委員長 清水 千恵

1 本園の概要

本園は埼玉県の中央部比企地区にあり、自然環境に恵まれた場所に位置しています。嵐山町や家庭、地域社会、関係機関等と連携し、豊かな体験活動やPTA活動を実施することができます。本園は昭和46年4月に開園し、51年目を迎えました。本年度、年少34名、年長44名、計78名在園しており、家庭数は75世帯です。

敷地内には、埼玉県庁から移築された埼玉県指定文化財日本赤十字社埼玉県支部旧社屋があり、教育活動やPTA行事、地域の拠点として有効に活用しています。



本園は、絶滅危惧種1A(環境省1B)に分類されているサワトランオの保護増殖活動に取り組んでいます。小学校6年生と連携してサワトランオの苗を植え、一人一人が「マイサワトランオ」として、栽培や観察をしています。その活動から誕生したマスコットキャラクター「さわとらくん」は、園、家庭、地域の連携のシンボルです。



2 嵐山幼稚園のPTA活動

(1) 園教育目標「えがお」と目指す保護者像



教育目標「えがお」○えがおであいさつする子○がんばる子○おもいやりのある子のもと、心豊かでたくましい園児の育成に取り組んでいます。目指す保護者像は、子供の心を受け止める保護者、子供を認め育む保護者、子供とともに育つ保護者です。

(2) 全員参加のPTA活動

本園のPTAは、在園する2年間で保護者全員がPTA役員をする「全員参加のPTA」です。教職員、保護者、地域住民の「チームらんざんで子供たちの成長を見守り、支援する」を合言葉に、「参加体験型のPTA」を目指し、意欲的にPTA活動に取り組んでいます。

(3) PTAの目的

幼児教育の重要性を理解し、協力して園の向上発展を図ることを目的としています。その目的を達成するために、次の5点の事業を行います。

- ・幼稚園の教育活動の支援をします。
- ・園児の健康増進に関することに取り組みます。

- ・年間行事が安全に実施できるよう協力します。
- ・会員の教養を高めるための事業を行います。
- ・PTAの目的達成のために必要なことを見付け、主体的に活動に取り組みます。

(4) PTAの組織

会長1名、副会長1名、本部役員を中心に、5部会(令和2年度：開園50周年実行委員会)で活動しています。

【総務部】

- ・総会の運営
- ・PTA役員決め
- ・運動会準備や運営の協力
- ・鎌形夏祭りへの事業参加



PTAと地域の連携で開催しています。総務部が企画した店を開き地域の方にも楽しんでいただきます。さわとらくん太鼓を披露しました。



※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のため中止

【広報部】

- ・広報「つくし」の発行
子供たちの活動の様子や笑顔いっぱいの写真を掲載しています。



【文化厚生部】

- ・年度末清掃
- ・運動会ビデオ撮影



コロナ禍ではありましたが、多くの保護者の方々が参加をし、園舎、園庭、日本赤十字社埼玉県支部旧社屋を清掃しました。

【クラス部】

- ・子育て講座の開催

令和元年6月 宮崎智美氏「笑顔の循環」

園教育目標の「えがお」の素晴らしさを語る。



令和2年1月 香田義光氏

「子供の見方を変えてみませんか。～子供は一人一人みんな違う。よさを発見しよう～」



令和2年：日本赤十字埼玉県支部より情報提供

「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！

～負のスパイラルを断ち切るために～」



- ・運動会前日準備、当日の協力
- ・運動会小道具作り、遊戯会衣装や壁面等の製作

(5) ボランティアシステムの構築

【園、家庭、地域で自作の竹楽器の製作



「さわとら太鼓」が、嵐山町や地域に響く】

竹楽器は、家庭、地域の協力を得て19台製作しました。脚付、ストッパー付きの2種類の竹楽器があります。安全に配慮するとともに、園児も運べるように軽量化されています。竹バチは、保護者ボランティアが製作しました。保護者の提案で、バチが手から離れないように布を巻き、腕にはめるように工夫されています。家庭で自分の考えたリズム演奏をしたり、町や地域の夏祭り、運動会、町民体育祭で演奏を行ったりなど、園児の生き生きとした姿を家庭や地域に知らせることができます。



PTAボランティアによる竹バチの製作（日赤旧社屋会議室にて）



脚付竹楽器 ストッパー付き竹楽器 竹バチ

*令和元年度は、夏祭り、運動会、町民体育祭で演奏

*令和2年度は、遊戯室で演奏



嵐山夏祭 鎌形夏祭り 運動会

【園ファームの活動支援】

地域の方にお借りしている畑を園ファームとして活用しています。子供たちは、野菜の水やりや観察をする活動を通して「気付く目」が



育っています。

収穫時は、PTAボランティアが支援をします。



【中部環境保全会との連携】

サツマイモ堀りの体験活動をし、焼き芋のおいしさを親子で味わいました。



【地域と連携したもちつき大会】

園、PTA、地域と連携してもちつきを行います。薪も地域の方にご提供いただきます。すべて臼と杵でつくおもちのおいしさを味わうことができ、子供たちは笑顔いっぱいです。鎌形地区南部、北部の皆様の協力を得て毎年実施してきましたが、令和2年度はコロナ禍で実施することができませんでした。



【家庭料理技能検定の実施】

文部科学省や農林水産省、厚生労働省、日本PTA全国協議会等が後援する家庭料理技能検定を実施しています。3名の実行委員(PTAOB)が運営し、保護者、園児、教職員、地域の方々の希望者が受検しています。令和元年度、2年度ともに100%の合格率です。学力や体力の基盤となる食の充実を図るため、また心豊かな園児の育成のために食に関する指導に取り組んでいます。この取組が認められ、令和元年度は「文部科学大臣賞」、2年度は「成績優秀団体賞」を受賞しました。



受検会場

一家4人で合格

実行委員

3 成果と課題

園、家庭、地域のシンボル「さわとらくん」とともに！

全員参加のPTAを目指し、教職員、地域の方々とチームらんどで子供たちの成長を支援することができ、成果を上げています。この活動を嵐山町民の皆様に発信する体制作りに取り組んでいきます。



【千葉県】

園・保護者・地域が一丸となって 子どもたちの育ちを支えるために



浦安市立明海認定こども園
令和元年度PTA会長
岡野 純子

1 はじめに

明海認定こども園は、千葉県の西端、東京都と隣接する浦安市にあります。浦安市は東京都市圏への通勤率が56.1%と高く、ベッドタウンとしての性質が強い街に変わりつつありますが、明治42年9月に浦安町がスタートし、昭和初期の産業は海苔の養殖やアサリ漁など水産業中心に栄え、境川にべか舟がひしめき合い漁師町として発展しました。昭和44年に地下鉄東西線が開通し、元々漁業の町ではありましたが、昭和46年には漁業権を全面放棄し、埋め立て工事が行われました。元町と呼ばれる当代島、猫実、北栄、堀江、富士見地区、中町と呼ばれる海楽、美浜、入船、今川、東野、弁天、ディズニーランドのある舞浜地区、そして、埋め立て事業が拡大したことから、急速に都市化が進んだ新町と呼ばれる日の出、高洲、明海地区と分かります。また市域の86%が埋立地で、区画整理された街並みも特徴的です。



人口は17万人。県内10位と人口規模はそれほどではありませんが、4km四方のコンパクトな街にマンション群が立ち並ぶ立地なので人口密度は県内第1位です。そうした「新しく作られた街」という明海地区の特性から、多くの住民が他自治体からの転入者であるため、地縁血縁が希薄な傾向にあります。そこで行政はまちづくりの過程において自治会活動や市民活動をバックアップし「絆づくり」「ふるさとづくり」に力点を置いています。

また、公立幼稚園・こども園が市内に14園あり充実している点、「幼・保・小・中連携教育」に力を入れている点も特筆すべき特徴です。

2 園の概要

本園は、平成6年に開園され今年で28年目です。園児数は、令和3年度は、年少24人、年中44人、年長41人の計109人で市内最大の規模となりました。

開園当時は、2年保育のみでスタートしましたが、保護者ニーズを受け、平成23年から夕方6時半までの預かり保育・“明海キッズ”が、また、令和元年度からは年少クラスが設置され、3年保育が始まりました。共働き世帯も多く、令和2年度のPTA本部役員は全員が2号認定のメンバーにより運営されました。

近隣に公設民営保育園、公立認定こども園、私立認定こども園、私立幼稚園が2園、公立小学校4校、公立中学校2校、私立大学2校と非常に多くの教育施設があります。

また、航空会社の社宅や、ラグビーチームの拠点が近くにあることもあり、海外生活の経験がある園児や外国籍の園児が多く、国際色が豊かな園です。先生方がピアノなどを駆使してノンバーバルコミュニケーションを図ったり、子ども同士が言葉や文化を交流する様子が見られたりし、学びの多様性が感じられます。

新町におきましては、冒頭で申し上げた通り、区画整理された街ですので、道路や歩道の道幅がとても広く、子どもたちは安全に登園することができます。

3 様々な連携

① 園と保護者との連携

～有志活動～

本園PTAには様々な保護者有志活動があります。スポーツ部では保護者同士が共に汗を流すことでリフレッシュし、保護者間のつながりを深めています。また、ガーデニング部は園内の花壇への苗植えや水やり、落花生やサツマイモの収穫のお手伝いなどを行います。DIY部は子どもたちが喜びそうな作品を作ったり、劣化した遊び道具を直したりして園生活の充実に寄与しています。読み聞かせ部は定期的に子どもたちに絵本を読み、エンタメ部は歌やダンスを園のイベントの際に子どもたちに披露し喜ばれています。

有志活動のような継続的な活動だけでなく単発で募集をかけるイベントも行っています。近隣公園のビオトープで育った米の藁でしめ縄を作るなど、こういったところからも地域とのつながりを感じることができます。



～コロナ休園時～

1回目の緊急事態宣言下で休園していた時、先生方が正門の近くにテントウムシの絵を貼り、各家庭に「散歩がてら是非園まで来てその絵に丸いシールを貼ってもらいたい」という旨が案内されました。

長い休みの間、みんなと会うことは適いませんでしたが、みんなで一つの作品を完成させるというつながりを断たないための工夫で、子どもたちのさみしさや不安が少し紛らわされたように感じました。



また、遊び道具の消毒作業は先生方にとって膨大な労務負担となることに気付き、卒園児の保護者の方々が率先して園内の遊具、道具を中心に、消毒ボランティアとし園に出向きました。短時間で周りとの接触を避けながら感染対策をとり、降園前の時間に消毒作業に協力をしました。



② 園と地域の連携

～近隣公園クラブ～

園の隣には“明海の丘公園”という大きな公園があります。広大な芝生やバラ園、ビオトープなどがあり、マンション群の中でありながら自然を感じることができます。明海の丘公園クラブというボランティア団体の皆さんと連携し、公園の花壇に苗を植えたり、ビオトープで田植えや稲刈りの体験をしたりして、四季の移ろいを体感することができます。

また、子どもたちと一緒に公園の花壇の花苗植えを学期1回行い、共に育てる気持ちを大切にしています。



～明海オヤジの会～

中町の幼稚園、こども園でも父親の活動が盛んな地域はありますが、明海地区は隣接する明海小学校の保護者であるお父さんたちで結成された“明海オヤジの会”が定着しています。小学生に遊びを通して様々な体験をさせてあげることが目的にした団体ですが、昨今の猛暑の中、こども園の園児たちが熱中症にならないようにとテントを貸し出し、設営を行っていただきました。こうした一つ一つが「地域全体で子どもたちを見守ってもらえている」という実感につながっています。

～地域こぞって防犯パトロール～

年に2回、近隣の幼小中PTAや自治会、ボランティア団体、市役所、警察などが一丸となって防犯パトロールを行っています。毎回100人を超える参加者と共にゴミを拾いながら「自分たちの街は自分たちで守る！」という気概をもってパトロールをしています。単にパトロールをするだけでなく、お



互いが顔見知りになり、横のつながりが生まれるのもこの催しの大切な意義の一つです。

昨年度はコロナ禍で大勢が集うことができませんでした。が、「この状況下でも何かできることを」とZOOMを使って情報共有を行いました。



市役所から市内の犯罪情報の報告、各団体の活動報告など様々な情報の提供と意見交換がなされました。最後には「地域の連携を強化することで防犯・防災の力を増し、ひいては子どもたちの健全育成に資する」という思いを共有し、地域の力強さ、頼もしさを感じました。

4 結びに

冒頭からの繰り返しですが、浦安市はその多くが埋立地でできた新しい街で、地縁血縁が希薄な傾向があります。また住民のほとんどはマンション住まいで“古き良きふるさとの原風景”とは異なる街です。

しかし、だからこそ、「地域住民がつながろう」、「連携して有事に備えよう」、「子どもたちの“ふるさとづくり”をしよう」という思いが強いのだと感じています。元町の幼稚園、こども園は逆に新町にはない伝統があります。4年に1回開催される三社祭の際には各自治会が団結し、3か所の神社毎の御輿を担ぎ、盛大に家内安全、地域の活性化を盛り上げます。

子育てや教育は一義的には保護者が、また園が担うものではありますが、社会の中で採まれ、そして地域の皆さんと触れ合いながら体得する経験も同様に大切です。

この明海地区の町で親になり、子どもを通じて様々な人たちに会えたことに感謝しながら、これからも保護者と園と地域が一丸となって子どもを見守り、育てていきたいと考えています。

【滋賀県】

育てよう！心豊かな金田の子ども

『キラッと輝く金田っ子』

～コロナ禍の中でできること～



近江八幡市立 金田幼稚園
令和2年度PTA会長
歳嶋 円香

1. はじめに

金田幼稚園は、滋賀県のほぼ中央、琵琶湖の東側に位置する近江八幡市にあります。近江八幡市には、織田信長が築いた「安土城跡」、「ヴォーリス建築」等の歴史遺産や近江商人の活躍を今に伝える「八幡堀」、ヨシ原を和船が行き交う西の湖の「水郷地帯」、日本で唯一の淡水内湖の有人離島「沖島」など風情が薫る景観が各所に広がっています。また、日本三大和牛の近江牛の名産地です。琵琶湖の恵み豊かな町で、JR琵琶湖線沿線にあり、京都から30分で訪れることができます。本園のある金田学区は、JR近江八幡駅周辺に位置し、交通の便もよく商業施設の多いエリアではありますが、近くには栗畑や湧水、田畑も広がり、豊かな自然を感じながら園生活を送っています。



2. 園の概要

本園は、昭和39年八幡幼稚園の分園金田幼稚園として創立。認可を受け昭和42年に近江八幡市立金田幼稚園となりました。駅に近い人気の学区で、市内最大の園として、現在の園児数は3歳児・4歳児・5歳児各3クラスで198名です。園庭には一面青々とした芝生が広がり、子どもたちはのびのびと遊んでいます。教育目標に「キラッと輝く金田っ子」を掲げ、一人一人が持ち味を輝かせながら、互いに認め合いともに育ちあう仲間作りを大切にしている教育が展開されています。また、コミュニティエリアとして、同敷地内に小学校・コミュニティセンターがあり、幼小連携や地域との連携がしやすい環境となっています。園・家庭・地域が一丸となって子どもたちの成長や安全を見守っています。

3. 金田幼稚園PTA組織について

金田幼稚園のPTA組織は、本部役員9名、学級委員36名（各クラスから4名ずつ）で成り立っています。本部役員は、会長1名、副会長2名、会計2名、専門部長4名（文化部・環境整備部・保健体育部・人権教育推進部）の合計9名です。学級委員は、各専門部に部員と

して所属し専門部長を筆頭に活動します。

専門部の主な活動内容は以下の通りです。

- 文化部…文集「めばえ」の作成、わくわく文庫の管理
- 環境整備部…花壇整備 夏季冬季環境整備活動
- 保健体育部…運動会手伝い あいさつ運動
- 人権教育推進部…絵本の読み聞かせや多文化交流

その他全役員を対象にバザーの開催やベルマークなどの管理・交通安全運動などを行っています。

※PTA活動紹介

《バザー》

金田幼稚園では、毎年10月ごろに保護者や地域の方々を対象にバザーを開催しています。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症が流行しました。様々な事業・行事が開催困難となる中、何とかバザーを開催する方法はないかと本部役員と幼稚園側で検討し、例年とは違う開催方法で実施に向けて取り組みました。

対象者は保護者のみとし、事前に整理券を配布して4グループに分け、入れ替え制で開催しました。夏休み前からバザー品の回収を呼びかけ、商品を回収し、予定通りに10月にバザーを開催することができました。例年は開催時間が1時間で、多くの人が一斉に商品を買いきていましたが、今年度は1グループに25名程度の人数制限を設け、各グループ40分ずつバザーに参加してもらう方法で密を避けて開催しました。例年より会場に入る人数が少ないため、ゆっくり商品を見ることができるといったメリットもありましたが、商品をまんべんなく分けなければいけないという開催側のデメリットも発生しました。令和3年度もバザーを開催する予定です。コロナ禍での開催方法を再度見直し、安全にバザーを開催できるよう検討を続けます。

バザーで得た収益は、ホームベンチとはしご兼用脚立を購入し子どもたちの遊びやPTA活動に還元しました。



《バザー開催》

《ベルマーク集計》

会計が主担当となり、ベルマーク・テトラパック・インクカートリッジの回収を行っています。それぞれの収益はPTA会費に加算しています。毎年保護者や地域の方々からのご協力のおかげで、たくさん回収することができています。また令和2年度は、ベルマーク使いがベルマーク使いコンクールで表彰をされ、最優秀賞をいただくことができました。



《あいさつ運動》

保健体育部が2学期はじめと3学期はじめの登園時にあいさつ運動を行っています。園児たちも大きな声であいさつしてくれ、笑顔いっぱい元気いっぱいな姿につながっています。



《除草作業・花の植替え》

環境整備部が中心となり、花いっぱい運動として花壇の除草作業や花の植替えを行い、園環境の充実を図りました。



《夏季・冬季環境整備作業》

環境整備部が中心となり、園内外の環境の美化に努めています。各世帯に夏季・冬季の環境整備参加への出欠のアンケートをとり、名簿を作成します。各世帯から一人ずつ一回だけ参加していただいています。



○夏季環境整備作業

夏休み最終土曜日の午前中に実施し、園内作業は、各教室の窓ふきや拭き掃除等を行います。園外作業は、敷地内の草刈りや木の剪定、溝掃除等を行っています。



○冬季環境整備作業

冬季は、平日の降園後に実施しています。作業実施中に園児の預け先がない方にも参加していただきやすいように、幼稚園側の協力も得て、作業中は別室で在園児の託児を行っています。

《園児に対しての絵本の読み聞かせ活動》

人権推進教育部が学期に一回ずつ全クラスを対象に開催しています。図書館とも連携を取り、読み聞かせ研修会を開催し、そこで得た学びを活かして、園児たちに読み聞かせを行いました。対象学年に応じた絵本を担当者たちで選び読み聞かせを行いました。



《多文化交流》

人権教育啓発活動の多文化交流では、『みんなちがってみんないい』をテーマに揚げ、年齢ごとに分かりやすい内容のペーパーアートや絵本の読み聞かせを行い、肌の色・性別(女の子らしく、男の子らしくなどの考え方にとらわれず、ありのままですばらしい)・容姿の違いはそれぞれのキラッと輝く大切な個性であることを伝える取組を行いました。



《文集「めばえ」の作成》



5歳児を対象に毎年文化部が中心となって作成しています。フリーペーパーを各家庭に配布し、親子で話し合いながら自由に作成します。子どもたち

の成長や思い出のつまった素敵な文集になっています。

《交通安全活動(旗当番)》

登降園時は基本的には徒歩や自転車でもらうよう保護者をお願いしていますが、未就園児のいる方や妊娠等の事情がある方を対象に駐車許可証を発行しています。駐車場の出入り口は、子どもたちが飛び出す危険性があるため、交通安全を目的に毎年旗当番をPTA会員の協力のもと行っています。PTA会員がPTA活動に参加する機会が少ないため、全世帯年に1回ずつ協力いただき、親同士の交流の場、PTA会員であるという認識をもち、PTA活動を知ってもらう機会としています。



《運動会》

子どもたちが楽しみにしている運動会。保護者の皆様の協力のもと、様々な感染予防対策をして開催しました。

- ・各家庭2名までの参加
- ・入場後各学年に分かれて受付、検温と人数確認
- ・マスク着用・消毒の徹底
- ・弁当はやめ、午前だけの開催とする
- ・シート等を広げての場所の個別確保はやめる
- ・ソーシャルディスタンスを意識して広がり、園庭全体を立見席とし、2階テラスも開放する
- ・観覧席を設け、学年の競技毎に入れ替えを行う
- ・私語は控え、拍手での応援

保護者の皆さんに協力していただき、無事に運動会を実施することができ、子どもたちの一生懸命な姿や楽しんでいる姿を見ることができました。

4. 課題とまとめ

PTA活動・園の行事においても、コロナウイルスとの戦いに始まり、試行錯誤を繰り返す日々でした。一年を通して、当たり前だと思っていた毎日が当たり前ではなく、かけがえのない日常だったと実感しました。

感染症予防対策、活動内容の変更等、園とPTAとで検討を重ね、ゼロからのスタートでしたが、緊急事態宣言発出後の休園を経て、6月に子どもたちの元気な声と可愛らしい笑顔が園庭に溢れた際は、喜びで胸がいっぱいになりました。子どもたちの笑顔のために、少しでも多くの経験と楽しい思い出が残るように、今後もコロナ禍の中でできることを考え、試行錯誤し、楽しみながらPTA活動を行っていきたいと思います。一日でも早く安心安全な毎日が戻ることを願っています。